

令和3年度 被災者支援総合交付金「心の復興」事業（第1回募集分） 交付可能額（団体別）

No.	事業名	提案団体名	取組内容	対象地域	交付可能額(千円)
1	避難者と避難受入地元住民との交流と協働による絆づくり	まちづくりNPO新町なみえ	東日本大震災・原発事故により二本松市に避難された浪江町民及び同様の境遇で避難された浪江町以外(飯館村・富岡町・大熊町・双葉町)の町村民で農業に興味のある人、帰還後農業により生活再建を計画している人を対象に、地元農家の協力を得、交流の輪を広げる。また収穫した野菜を利用して品評会や収穫祭を開催し、避難者と地元民との交流・絆づくりを推進し、避難者の心のケアや健康づくりに積極的に努める。また、ふくしま連携復興センターが実施している「ふくしま県外避難者への相談・交流説明会事業」に石倉きずな市民農園における農業活動のPRを依頼し、県外避難者への参加を募り、交流・絆づくりに取り組む。	福島県二本松市(実施場所 福島県二本松市油井字石倉地内 石倉団地)	3,121
2	被災者の主体性醸成による地域コミュニティ支援	国立大学法人岩手大学研究支援・産学連携センター	コミュニティ活動の中心である自治会運営と、住民主体で実施する行事等の企画・実施を支援する。被災者の「地域力」を引き出し、情報提供・主体性醸成・実践力強化の3点を軸とした支援で、第2期復興創生期後を見据えた人づくりを行う。また、行政・支援者・被災者(住民)の協働を促進して地域活動のノウハウ蓄積を図る。	岩手県、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、北上市、宮城県、気仙沼市、南三陸町、女川町、塩釜市、多賀城市、仙台市、福島県、いわき市、大熊町ほか	13,426
3	心と体とまちの栄養復興プロジェクト	特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット	本事業では、被災地域の住民と浜通り地方の大学生が主体となって、ものづくりワークショップの企画運営を行う「まちづくりエーション」と、被災地のスーパー店舗等で健康チェック及び展示ブースを行う「健康IKOI隊」の2つの取組を行う。もの作りと世代間交流、健康増進に関する正しい知識の獲得を通じたによる生きがいづくりを目的とする。被災住民と学生による主体的活動を促し、将来の地域医療をも見据えた活動を実践する。	福島県いわき市、郡山市、福島市、宮城県仙台市、岩沼市	3,496
4	宇宙飛行したアイテムを活用した被災地全域での心の復興と交流	一般財団法人ワンアース	昨年度までの復興庁助成により、全世界からの10年に及ぶ復興支援への感謝の気持ちと復興の姿を国際宇宙ステーションから発信する「東北復興宇宙ミッション」が実現したが、今年度は、その成果物として7月に地球に帰還する「各地から宇宙を旅した記念品(花や野菜の種など)」を活用し、心の復興および地域振興に役立つ活動を行う。	岩手県洋野町・大槌町、宮城県気仙沼市・七ヶ浜町、福島県福島市・檜葉町を中心とした42市町村	3,458

No.	事業名	提案団体名	取組内容	対象地域	交付可能額(千円)
5	地域を超えてつながろう～ふるさと応援団～	一般社団法人JAST(日本ソーシャルセラピストアカデミー)	地域・自治会がニーズに応じたワークショップを企画・開催することができるよう伴走支援する。同時に、災害公営住宅と地域の交流促進、自治会力の強化、自治会間の連絡網づくり、避難先とふるさとの交流など、多様なコミュニティづくりを支援する。	福島県(いわき市磐崎団地・北好間団地,南相馬市南町団地・北原団地,浪江町,大熊町,郡山市富田団地・安積団地,福島市飯坂団地・北沢又団地,二本松市石倉団地)・宮城県(石巻市蛇田地区・渡波地区,東松島市野蒜・東名・矢本地区,山元町新旧地区,気仙沼市鹿折地区,南三陸町,名取市閑上西団地)・岩手県(陸前高田市・大船渡市・住田町・大槌町)・東京都江東区(東雲住宅OB会・関東地方避難者合同)	9,040
6	多世代協働による『食づくり・ものづくり』ハッピープロジェクト	ハッピープロジェクト	被災者の方が、生きがいをもって幸せに歳を重ねることを目的とし、災害公営住宅や仮設住宅をはじめとした被災者の方を対象とし、被災者の方が、子ども・大学生・若者・高齢者等さまざまな世代と一緒に、ともに汗をかき楽しみながら行う、ハーブ・農作物づくりや交流会等の「多世代協働による食づくり」、育てたハーブを活用したアロマづくり等の「多世代協働によるものづくり」、パネル展示等による「風化防止」に取り組む。	宮城県名取市(閑上復興住宅ほか)・仙台市、福島県南相馬市・飯館村・相馬市、神奈川県横浜市	3,750
7	参加型の心と体の健康イベントやワークショップによる地域活性化事業	一般社団法人PSJ	宮城県および岩手県の被災地域において、心と身体の健康増進を目的とした参加・体験型イベントの実施により、子どもから高齢者まで広範囲にわたる参加者の生きがい作りや、世代間交流によるコミュニティの再生・創出に寄与する。また、学生や若い世代が主体となって開催する、食と体操等による「心と身体の健康プログラム」作りのワークショップをもとに、被災地域の若い世代・社会人・高齢者との世代間交流と地域活性化を図るとともに、これからの地域活性化を担う世代の、地域交流活動へのより一層の参画に寄与する。これらの事業全体を通し、企画・準備段階から被災地域の自治体や住民の積極的な参画を促して協力体制で運営することで、より広範囲なネットワークの構築、更に持続可能な取組への発展を目指す。	宮城県名取市・石巻市・南三陸町及び岩手県釜石市・盛岡市・上閉伊郡大槌町などの広域	3,475

No.	事業名	提案団体名	取組内容	対象地域	交付可能額(千円)
8	傾聴活動による「心のケア」・震災10年の「アンケート」等	特定非営利活動法人 仙台傾聴の会	東日本大震災から10年、被災者支援「心のケア」としての「傾聴カフェ」「傾聴箱庭カフェ」の継続に加え、今年度から「皮ブローチ作成」を住民同士のコミュニケーションの場を介し習得して頂く事業を提供する。住民が自主的に物づくりに励み生産性ある豊かな生活スタイルを得られる方向性を考える。 また「心の復興はまだまだ」といわれる中で、これまでの10年を振り返り、現在の心の状況はどのようなものか「アンケート調査」を実施、被災者の心模様をさぐる。	宮城県仙台市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町 福島県南相馬市	3,497
9	「千年希望の丘」岩沼復興アグリツーリズム	インフォコム株式会社 岩沼「みんなの家」事業所	被災者の心身のケアと生きがいづくり、被災地域コミュニティの再構築を図ることを目的とし、岩沼市の集団移転地や被災沿岸地区等の被災者を対象として、市の多重防衛のひとつであり復興のシンボルでもある「千年希望の丘」の植樹や育樹、防災教育・岩沼震災の語り部を通じた震災の記憶の風化防止、被災農地での農業体験や「岩沼みんなの家」での産地直売・6次産業化、各種教室・ものづくりWSを開催し、また、これらを通じたツアーや交流イベントの開催に取り組む。	宮城県岩沼市	3,000
10	被災3県の復興祈念公園を軸とした地域連携による震災伝承と防災	公益社団法人3.11みらいサポート	祈念公園周辺の震災遺構、市民活動拠点や町内会など地域全体での来訪者の受け入れ態勢づくりを通じ、被災者自らが生きがいを感じながら東日本大震災の記憶や教訓を後世へ伝承する機会を創出する。避難の教訓や街の記憶聞き取りを通じ離散住民の繋がりを回復させる。また、岩手・福島の祈念公園と情報共有・交流しながら、被災3県連携による被災者主体の震災伝承と防災活動を推進し、将来にわたり継続可能な体制づくりに取り組む。	石巻市、岩手県、福島県祈念公園と周辺地区	9,162
11	首都圏・広域避難者の自主的な『活力増進と風化防止』プロジェクト	特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター	自ら主体的に生きがいづくり、仲間づくりのため活動する避難者やそのグループを増やすことを目的に、首都圏(東京・埼玉・神奈川・千葉)の避難者を対象として、「活力増進」の支援(各種講座、教室、交流会)、震災の教訓を防災に生かす風化防止活動(語り部活動、展示イベント)を継続して行う。 同時に、首都圏をはじめ、他県の避難先地域の避難者と支援者、市民が文化活動を通じてつながるコミュニティ「ふるさとサポーターズ」の推進活動にも取り組む。 withコロナにおける新しい生活様式として、オンラインでの交流も行いながら「ふるさとサポーターズ」のネットワークを構築し、今後の5年間でサポーターによる文化活動運営ができるようになることを目指す。	東京都、埼玉県、神奈川県	13,277

No.	事業名	提案団体名	取組内容	対象地域	交付可能額(千円)
12	東日本大震災で被災し山形県に避難した人達と福島県民の親睦・交流「甦るプロジェクト」	きびたき長井甦るの会	山形県には避難者が約1,500名暮らしている。支援の減少、長期避難による問題の個別化、多様化などが増える中 避難者の自立を促進し、コミュニティの再構築を図ることは、喫緊の課題だ。この事業は、福島県への帰還者・山形県で暮らす避難者を対象とし 酒米づくりの農業体験・交流会を行い、自分たちの「酒造り」を通して生きがい・つながりづくりを目的とする。当団体の主力メンバーは避難者を中心に構成。当事者の強みやネットワークを活かす。避難者が収穫の喜びを体験し、酒づくりを通して福島県・山形県の地域を超えた交流を行う。	山形県長井市及び山形県全域・福島県浪江町・福島県	2,132
13	市街地模型を活用した被災者の観覧・参加・参画による心の復興	一般社団法人トナリノ	本事業は震災前の市街地模型を展示、被災者が昔語りや世代間交流をしながら、色塗り・思い出のピンを刺すことで、暮らしの中で紡がれてきた記憶を懐かしみ、伝承をすることで、心の復興を目指す事業である。運営には大学生が参加をすることで、被災者の心の復興に留まらない、次世代への伝承や愛着促進にも寄与する。さらに、都市部での展示、紙媒体やサイトでの発信により、広域避難者の心の復興や震災風化の防止にも寄与する。	岩手県陸前高田市、大船渡市、宮城県気仙沼市、東京都	3,480

74,314